

会津若松城

東日本の名城・鶴ヶ城
激戦の戊辰戦争



取壊し(明治7年)以前の城
下は、昭和前半の廊下橋
昭和前半の絵葉書より、個人蔵



取壊し以前の城、個人蔵

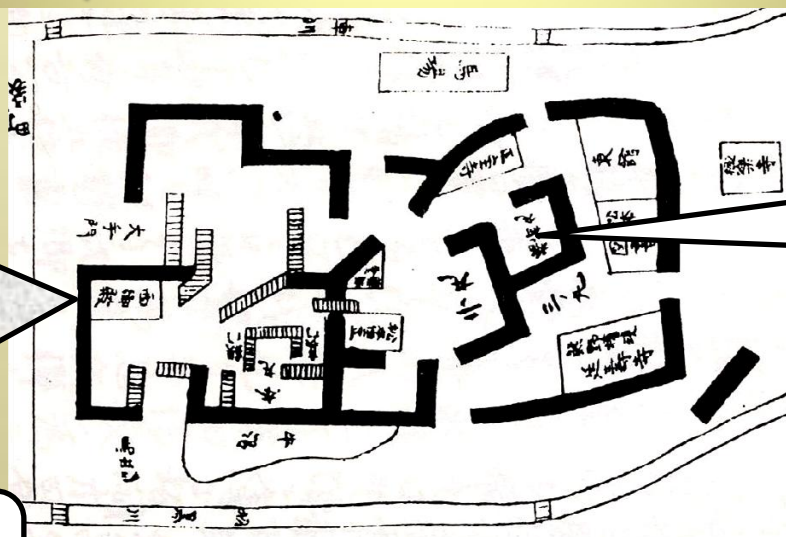
正確な図と時代検証

城の誕生から戊辰落城まで
城のすべてを詳細に解説

城の変化

葦名時代の黒川城

天正18年
4月5日、
伊達政宗
の毒殺事
件があっ
た場所



葦名時代に
天海大僧正
が住んでい
た稲荷曲輪

蒲生氏郷から上杉景勝・
蒲生忠郷時
代の天守閣
は七層

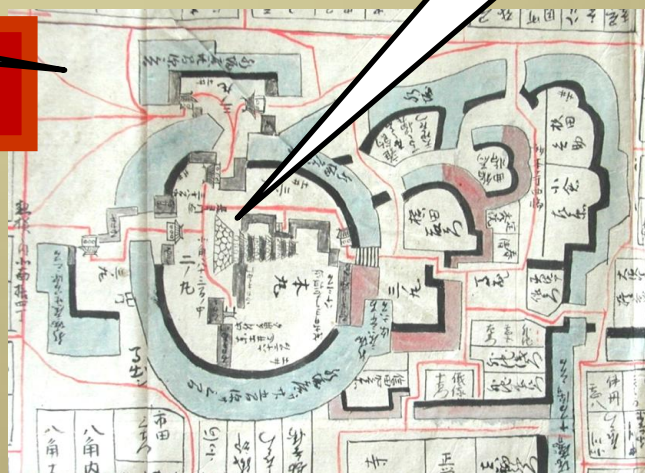
当時の大
手口

黒川城「小田山城明細図」

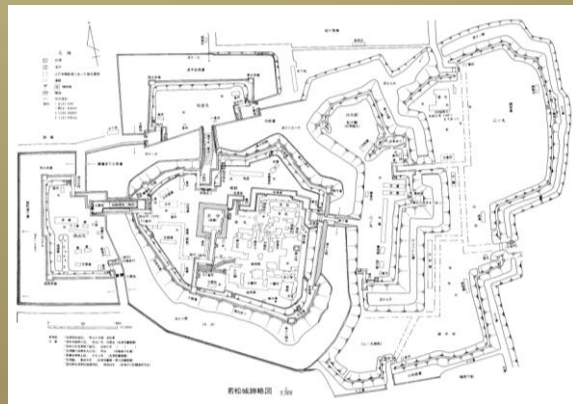
直江兼続の屋敷跡

葦名時代の黒川城は、「会津旧事雑考」によ
ると、天文十三年（一五四四）頃には、大改修さ
がれています。当時の黒川城は若松城と同じ範囲
がありました。「新編会津風土記」に、蒲生氏郷は、広島城のよ
うな城にしたかったとあります。しかし、家康
の意見を取入れ、城の規模は拡大せず、堅固に
したと書かれています。上杉景勝時代、鉄門西
側の帯郭内に上杉謙信公廟の御堂（みどう）が慶
長三年（一五九八）八月に造られています。
直江兼続の屋敷は、当時の大手口となる北出
丸西側正面にあり、東を向いていました。

文責 石田明夫



蒲生忠郷時代の若松城
元和6年(1620)頃



戊辰戦争時の若松城

若松城内にある年号石垣



文化14年(1817)北出丸の石垣に彫られた刻字。普段は撮影は難しい場所にあります。石田撮影



天保3年(1832)西出丸の石垣に彫られた刻字。撮影は困難な場所にあります。石田撮影



慶長年間、(1610年頃)太鼓門北の石垣は、町野長門守が改修しています。石垣の改修の時に、町野長門守の刻字が発見されています。



慶長年間、(1610年頃)外郭・外堀の甲賀町口にある石垣。「蒲生源左衛門尉」と彫られています。

若松城の石垣は、葦名氏時代から積まれたと見られます。伊達政宗も、町人までを動員して石垣を積み、1590年には2回現地を視察しています。現在の石垣は、蒲生氏郷以降のもので、天守閣は、氏郷時代ですが、忠郷時代のものが、太鼓門と裏門の走り長屋付近にあります。他の多くは、加藤明成時代の1641年頃までに大改修されたものです。石垣の石は、溶結凝灰岩で、城の北東、約3キロに位置する会津若松市東山町石山地内から運ばれたものです。文責石田明夫

若松城・鶴ヶ城

若松城とは国史跡の名称で、鶴ヶ城は通称名、会津若松城とは江戸時代の名称。

所在地 福島県会津若松市追手町1-1 会津若松市所有。

天守閣は、昭和40年に鉄筋コンクリートで復元されたもの。蒲生氏郷は、天正19年(1590)8月に会津に入り、文禄(ぶんろく)2年(1593)に7層の天守閣を持つ城へ大改修しました。

黒川城、鶴ヶ城、若松城、会津若松城とは、鎌倉時代、会津の領主だった葦名氏に始まります。4代泰盛(やすもり)の頃に葦名氏は領地支配を強化し、会津入りします。小田山山ろく(宝積寺が最初の館の可能性あり)か、小田垣(小高木)に館を構え、いざという時に立て籠もる詰めの城・山城として「**小田山城**」を築きます。南北朝時代、会津周辺は南朝方に取り囲まれていたものの一貫して北朝方の拠点として貫きます。文和3年(1354)には、『旧事雑考』『富田家年譜』によると、7代直盛(なおもり)が小田垣に館を構え小田山城を築き、現在の若松城付近にも黒川城を築きます。(全国的にも弘安の役以降、在地支配が強くなり、南北朝時代、会津周辺は南朝方であり、北朝の拠点として、館や城がそれまで無かったとは考えられない。南北朝時代の山城が青木山山頂にあります)直盛は、康暦元年(1379)会津に入り、飯寺の館から黒川城と町の整備のため永徳2年(1382)に小館(市内本町)に移り、城下整備の指揮をとります。至徳(しとく)元年(1384)黒川城の大改修が終了し、「鶴城」(鶴ヶ城の名の始まり)と呼び、鎌倉持ってきた稲荷神社(御神体が市内馬場町の鶴ヶ城稲荷神社にあり)を祀ります。蒲生忠郷時代まで、三の丸に稲荷神社を祀る稲荷丸があり、天海が住んでいました。『塔寺長帳』によると天文(てんぶん)7年(1538)、黒川城下で大火があり、城も焼失します。天文13年(1544)には、5年の歳月をかけ、城の大改修が終了、ほぼ現在の若松城の大きさとなります。当時は、東が大手口で、西が搦手(からめて、裏口)でした。

永禄4年(1561)には、16代盛氏が、本郷に、立て籠もる詰めの城を小田山城から「**向羽黒山城**」へ移し、永禄11年(1568)に7年の歳月をかけ完成『旧事雑考』させます。

天正17年6月5日、伊達政宗の会津侵攻により、400年続いた葦名氏が会津を去り(葦名氏は茨城県の江戸崎城から慶長6年(1601)には秋田県角館へうつります)ます。伊達政宗は、まず、山城の向羽黒山城を半年かけて改修し、天正18年2月からは、『伊達天正日記』によると黒川城の改修を始め、町人までも動員し、石垣を積んほど大改修をしています。**伊達政宗**の毒殺事件は、『伊達治家記録』によると西出丸にあった西御殿で起きています。

豊臣秀吉は、天正18年(1590)8月、政宗に代わり蒲生氏郷を会津に据えます。氏郷は、まず、最後の砦となる山城の向羽黒山城を2年間かけて大改修し、終了後、文禄元年(1592)から黒川の城下と城の大改修に着手します。文禄2年(1593)には天守閣が完成します。『新編風土記』によると、氏郷は当初広島城のようにしようとしたが、徳川家康の「塀を長く回す城よりは、城を堅固にし、速やかに戦いに備えるべし」という意見を取り入れ、葦名氏・伊達政宗の黒川城を改修することにとどめました。しかし、高石垣と天守閣というそれまでに無い東北の城となりました。**蒲生氏郷**が亡くなると蒲生秀行が跡を継ぎます。しかし、力不足のため、秀吉から国替えを命じられ宇都宮へ移ります。

慶長3年(1598)には越後の春日山城から上杉景勝が120万石で入ります。景勝は、はじめに領内の道路や橋、支城の整備、最後の砦となる**向羽黒山城**を2年間かけて大改修し、朝鮮半島の熊川倭城に似た城に改修します。そして、蒲生氏郷も現在の若松城の地では不利で経済発展がしにくい事を、景勝も同じであり、氏郷が希望した広島城に似た新城の「**神指城**」築城を慶長5年(1600)に着手します。『塔寺長帳』には13村を移転して事が書かれています。しかし、景勝は石田三成方であったことから家康の標的になり、4万5千の大軍で栃木県の小山まで進んできますが、三成が兵を上げたので、家康は西に戻り関ヶ原の戦いになったのです。この時、景勝は国境に大規模な防塁を多数築いています。神指城は、石垣や門まで造られますが、完成することなく、慶長6年に破城されます。そして、宇都宮から再び蒲生秀行が会津に入り、若松城を居城とするようになります。秀行や3代忠郷は、石垣や堀を含め城の改修を進めていますが、慶長16年(1611)には、会津盆地西部を震源とする大地震が発生し、城の石垣や天守閣が傾いています。秀行は、地震の翌年、死去しています。

蒲生氏に変わり、加藤嘉明が四国の松山城から40万石で入ります。加藤氏は、子の明成とともに、西出丸や北出丸、廊下橋脇の高石垣、天守閣の建て直しは加藤氏によるものです。保科・松平氏になっても石垣は何回も崩れ、幕府に伺いを立てて幕末まで、いろいろな部分を直しています。

最初の殿様

不明です。会津最初の領主は、1189年に佐原義連が最初となります。佐原氏は葦名氏(あしなし)と名のるようなり、4代泰盛(やすもり)頃に会津に落ち着き、本拠地の城館を築きます。黒川城としては、7代葦名直盛(なおもり)が整備しています。

歴代の殿様

佐原氏(さわらし)・葦名氏(あしなし) 1189年～1589年(400年)、3代目から葦名となる

※葦名氏の系図は諸説あり、確定しない部分(8代～11代)があります。

初代・佐原義連(よしつら)、2代・佐原盛連(もりつら)、3代葦名光盛(みつもり)

4代・葦名泰盛(やすもり)、5代・葦名盛宗(もりむね)、6代・葦名盛員(もりかず)

7代・葦名直盛(なおもり)、8代・葦名詮盛(あきもり)、9代・葦名盛政(もりまさ)

10代・葦名盛信(もりのぶ)、11代・葦名盛久(もりひさ)、12代・葦名盛詮(もりあき)

13代・葦名盛高(もりたか)、14代・葦名盛滋(もりしげ)、15代・葦名盛瞬(もりきよ)

16代・葦名盛氏(もりうじ)、17代・葦名盛興(もりおき)、18代・葦名盛隆(もりたか)、

19代・葦名亀若丸(かめわかまる)(隆氏・たかうじ)、

20代・葦名義広(よしひろ)(盛重・もりしげ)

伊達政宗(だてまさむね) 1589年～1590年(2年)

蒲生氏(がもうし) 1590年～1598年(9年)

初代・蒲生氏郷(うじさと)、2代・蒲生秀行(ひでゆき)

上杉氏(うえずぎし) 1598年～1601年(4年)

上杉景勝(かげかつ)・執政が直江兼続

再蒲生氏(さいがもうし) 1601年～1627年(27年)

2代・蒲生秀行(ひでゆき)、3代・蒲生忠郷(たださと)、4代・蒲生忠知(ただとも)

加藤氏(かとうし) 1627年～1643年(17年)

初代・加藤嘉明(よしあき)、2代・加藤明成(あきなり)

保科氏(ほしなし)・松平氏(まつだいらし) 1643年～1868年(226年)、3代目から松平

初代・保科正之(まさゆき)、2代・保科正経(まさつね)、3代・松平正容(まさかた)、

4代・松平容貞(かたさだ)、5代・松平容頌(かたのぶ)、6代・松平容住(かたおき)、

7代・松平容衆(かたひろ)、8代・松平容敬(かたたか)、9代・松平容保(かたもり)

戊辰戦争編

領主と藩主の墓

佐原・葦名氏 初代佐原義連は、神奈川県横須賀市の万願寺にあり、供養塔が喜多方市熱塩加納にあります。市街地

南東の小田山山麓に**寿山廟と花見ヶ森廟**、東山の天寧に狸(たぬき)ヶ森廟にあります。

伊達氏、上杉氏、加藤氏 墓はありません。

蒲生氏 **氏郷が興徳寺**、秀行が館馬町の弘真院、忠郷が中央二丁目の高巖寺にあります。

保科・松平氏 初代保科正之が磐梯山麓の猪苗代町土津神社が墓所、2代目以降は市内東山町の **会津藩主松平家墓所**にあります。

○戊辰戦争の籠城者数

5,235人(病人570人、奥女中64人、婦女子575人を含む) 中には裏切り者がいて、西出丸の外で処刑され、太鼓門と天守台の間にさらされていた者もいました。

○藩主の殿様はどこに居たか

表門(鉄門)と天守閣の間、走り長屋の西側です。

○籠城戦の戦死者はどうしたか

始めは、伏兵郭に埋めた。後に帯郭の2ヶ所の空井戸へ投げ入れた。

○戊辰戦争の戦死者

会津藩軍 2,977人死亡。若松城下の2/3が焼失しました。

○会津藩の借金は幕末にいくらだったか

57万両、今の金額にすると1両9万円です。513億円ありました。

○両軍兵力

会津藩軍 正規兵約3,500人、農兵などを加え約9,400人

新政府軍 約75,000人

○会津藩軍と新政府軍の兵器

会津藩軍 主力はヤーゲル銃(丸弾)

新政府軍 主力はミニエー銃、スペンサー銃、スナイドル銃(現在の弾の形)

○斗南藩の由来と石高

「北斗以南、皆帝州」から取り、斗南藩と付けた。17,327人が移住しました。

石高3万石とされましたが、実高は5,000石から7,000石程度でした。

○戊辰戦争後、城はどうなったか

明治6年に陸軍省が建物を売りに出し、町野主水が862円で落札。

土地は明治23年(1893)陸軍省が46に分割して売りに出したが松平容大が一括して2,000円で買いました。

○東北初の博覧会

明治7年建物が取壊された。取壊される前に、東北初の博覧会が20日間開催されました。

○史跡指定はいつか

昭和9年(1934)12月28日、国史跡指定 名称は「若松城址」今は「若松城跡」

○国指定面積

22.9401ヘクタール